

## 2006 年度 小委員会活動成果報告

(2006 年 2 月 13 日作成)

|                           |  |                                |
|---------------------------|--|--------------------------------|
| 小委員会名                     | サスティナブルシティ小委員会   |                                |
| 所属本委員会<br>(所属運営委員会)       | 環境工学本委員会<br>(都市環境・都市設備運営委員会)   |                                |
| 設置期間                      | 2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月  |                                |
| 設置目的<br>各年度活動計画<br>(箇条書き) | <p>今日のサスティナブルな都市づくりの社会的要請をふまえて、都市計画分野とも連携しつつ、おもに都市環境工学の面からサスティナブルな都市の将来像について研究することを目的とする。</p> <p>初年度(2005年度): 将来像に関する定性的な検討、国内、海外事例の整理<br/>                 2年度(2006年度): 基礎データ整備と都市内の地域類型化<br/>                 3年度(2007年度): 将来像に関する定量的検討<br/>                 4年度(2008年度): 研究のまとめ</p> |                                |
| 委員構成<br>(委員名(所属))         | 委員公募の有無: 有<br>佐土原聡(横浜国立大学)、三浦秀一(東北芸術工科大学)、高偉俊(北九州市立大学)、<br>下田吉之(大阪大学)、須藤諭(東北文化学園大学)、田中昭雄((財)日本エネルギー<br>経済研究所)、垂水弘夫(金沢工業大学)、原英嗣(早稲田大学)、福田展淳(北九州市立大<br>学)、村上公哉(芝浦工業大学)、湯浅和博(東京工業大学)、横尾昇剛(宇都宮大学)、吉<br>田聡(横浜国立大学)、吉田友紀子(国立環境研究所)、依田浩敏(近畿大学)、協力委員:<br>小柳秀光(大成建設)                            |                                |
| 設置 WG<br>(WG 名: 目的)       |  |                                |
| 2006 年度予算                 | 70,000 円   | ホームページ公開の有無: 無<br>委員会 HP アドレス: |

| 項 目                                | 自己評価  |
|------------------------------------|---|
| 委員会開催数                             | 3 回(年度内計画を含む)   |
| 刊行物<br>(シンポジウム資料等は<br>除く)          |   |
| 講習会                                |   |
| 催し物<br>(シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)      | 1. 国内シンポジウム「建築からみた今後の温暖化対策シナリオとは？」<br>(独)国立環境研究所との共催 2007 年 3 月 3 日予定<br>2. 都市環境・都市設備公開勉強会「都市環境・都市設備研究の最前線」<br>2007 年 3 月 6 日予定 |
| 大会研究集会                             |   |
| 対外的意見表明・パ<br>ブリックコメント等             |   |
| 目標の達成度<br>(当初の活動計画と得ら<br>れた成果との関係) | 1. 委員会メンバーによる積極的な情報交換が行われた。<br>2. 初年度、2年度の活動計画の内容がほぼ達成でき、エネルギーシステム面からのサスティナブルな大都市域の将来像についての成果が得られた。                             |
| 委員会活動の問題点<br>・課題                   |   |

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。

\* 環境本委員会傘下の小委員会においては、上記の活動成果報告書に加えて、以下の自己評価を記入すること。

\* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

## 2006 年度 小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価)

|  |  |
|--|--|
| <p>総合評価<br/>(4段階評価)</p>                  | <p>B</p>   |
| <p>総合評価に関する<br/>自由記述欄<br/>(理由、特記事項等)</p> | <p>1. 委員会メンバーによる積極的な情報交換が行われた。<br/>2. 初年度、2年度の活動計画の内容がほぼ達成でき、エネルギーシステム面からのサステナブルな大都市域の将来像についての成果が得られた。<br/>3. 研究成果についての情報発信は十分とはいえず、これから取り組む必要があるので、評価をBとした。</p> |

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。